

# 【家庭教育支援チーム】

## (1)活動主体(チーム)について

|               |  |
|---------------|--|
| ①チーム名<br>(呼称) | 男鹿市家庭教育支援チーム<br><br>URL: <a href="https://www.city.oga.akita.jp/soshik/kyoikusomuka/shogaigakushu/1098.htm">https://www.city.oga.akita.jp/soshik/kyoikusomuka/shogaigakushu/1098.htm</a> |
| ②活動拠点         | 男鹿市全域  |
| ③活動範囲         | 男鹿市全域  |
| ④組織体制         | _____ 9 人  |
| ⑤活動開始年度       | 平成20年度   |
| ⑥問合せ先         | (部署・氏名等)<br>男鹿市教育委員会 教育総務課 生涯学習班<br>(TEL)0185-24-9133 (E-mail)syougaigakusyu@city.oga.akita.jp   |

## (2)活動内容について

|                     |   |
|---------------------|---|
| ①活動形態<br>(複数チェック可能) | <input checked="" type="checkbox"/> 保護者等への学びの場の提供<br><input checked="" type="checkbox"/> 保護者等への地域の居場所づくり<br><input checked="" type="checkbox"/> アウトリーチ型家庭教育支援(※保護者の居場所に出向いて届ける支援)<br><input type="checkbox"/> 自宅に届ける支援(情報提供、相談対応等)<br><input checked="" type="checkbox"/> 保育所・幼稚園・学校等に届ける支援(情報提供、相談対応等)<br><input checked="" type="checkbox"/> その他の保護者に届ける支援(情報提供、相談対応等)<br><input type="checkbox"/> その他( ) |
| ②活動対象<br>(複数チェック可能) | <input checked="" type="checkbox"/> 乳幼児 <input checked="" type="checkbox"/> 小学生(低学年) <input checked="" type="checkbox"/> 小学生(中学年) <input type="checkbox"/> 小学生(高学年)<br><input checked="" type="checkbox"/> 中学生 <input checked="" type="checkbox"/> 高校生以上<br><br>の子供を持つ保護者に対する活動を実施  |

【具体的な活動内容】

■活動の狙い

子育て中の家庭へのきめ細かな支援をするため、子育て支援団体や学校、行政部局との連携を密にし、情報や学習機会の提供、気軽に相談できる環境づくりの充実を図り、地域における効果的な家庭教育支援の取組と普及を促進する。

■活動内容

○親子おちゃっこサロンの開設

- ・ 目的: 学校等に赴き、保護者が家庭教育支援チームと話ができるスペースを設けることで家庭教育に係る相談体制の充実を図る。【年間 15 回程度開催】
- ・ 期待できる効果: 保育園や幼稚園、小・中学校で開催される授業参観への参加や家庭教育講座の開催などで、お茶を飲みながら家庭教育や子育てに関する思いや悩みなどを気軽に話し合える。保護者との共通理解を図るとともに、ざっくばらんに話せる和やかな雰囲気をつくることで、生の声を聴きながら家庭教育に関する情報の提供と収集、気軽に相談できる体制づくりに努め、家庭教育を支える。



③活動内容

○子育て元気アップひろば

- ・ 目的: 親子で行うことができる体験学習の場を提供する。地域資源や秋田県生涯学習センターを活用することで、魅力的な講座を参加者へ提供する。【年間3～4回】
- ・ 期待できる効果: 機会がなければ行うことのない活動の場を提供することで、家庭での親子のコミュニケーションの円滑化を図ることができる。また、学校で体験することができない講座を開催することは子どもへのキャリア教育の一助となること、地域人材の活用はその者が生涯を通して身に付けた知識を発揮できる場づくりとしても活用することができる。

○子育て元気アップ講座

- ・ 目的: 保護者が家庭教育に必要な知識を身に付ける機会を提供する。各分野の講師を招き、家庭教育や子育てに関する学習機会や情報提供を行う。【年間1～2回】

- ・ 期待できる効果:親子おちゃっこサロンで相談のあった悩みなど、参加者が日々抱える課題に即した内容で実施することで参加者のニーズに沿った知識の取得が期待できる。また、座学だけではなく、保護者同士や講師との交流の機会を設けることにより、親同士の子育て仲間づくり支援や、困ったときに気軽に相談できる体制づくりにつながる。

⇒前述の講座の開催や交流機会に当たり、チームと「おがっこネウボラ※」の職員とも連携し、講演や相談、情報共有が気軽にできる関係を構築。

○家庭教育に関する情報提供:親子おちゃっこサロンや講座でのミニ移動図書館(家庭教育関係図書や絵本の紹介・貸し出し)、相談窓口への取り次ぎ、専門家の紹介など。

(写真は、親子おちゃっこサロンでのミニ移動図書館の様子)



○お茶っこ通信の作成・配付

年に2度、その年度の活動内容を紹介する「お茶っこ通信」を作成し、関係機関や市内の保育園や学校を通じて保護者に配付する。

○報告書の作成・配付

チーム員の資質向上と他機関との情報共有を目的とし、年に1度、チームの概要や当該年度の活動をまとめた報告書を発行。市内の保育園や小・中学校、その他関係機関に配付する。

○子ども×地域 元気アップひろば

チームが主催し、子育て・食・自然・音楽等、各分野で活動する地域住人・団体と連携し、子育てや地域について学べる講座や体験教室を開催。

- ・ 目的:子どもと家庭、地域を結び、連携・協働の土台(基礎)作りを図る。あわせて、多世代が交流できる場の設定により、居場所づくりの支援と地域ネットワークの構築を図る。【年間1回】

#### ○制服リユース

- ・ 目的:利活用可能な制服等の回収をサポートし、必要な家庭へ制服等を譲渡する。引渡の段階で保護者や子どもと家庭教育支援チーム員が会話をすることで気軽な相談の場を作り出し、チームが存在することの認知と次回以降の相談機会の増加を図る。
- ・ 期待できる効果:今まで家庭教育支援チームへ関心がなかった方へのチームの認知度の向上(子育て世代ではない方や家庭などからの認知)。子どもを連れて制服等を着合せる時、子どもの状態を見ることができるので、チーム員が具体的な助言を行うことができる。



#### ○外部団体や地域イベントへの参加

家庭教育に関する公民館事業やアースデイ男鹿、おてら食堂といった地域イベントと積極的にかかわることで、子育てを行っていない地域の方にチームの存在を認知してもらい、ネットワークの拡大を図る。



**④活動の成果**  
(活動実績がある  
場合)

**【親子おちゃっこサロン】**

- ・ 単独で開催するのではなく、放課後子ども教室や学校等の行事に組み込むことで教育現場での実施が可能となり、より多くの保護者が利用できる仕組みとなっている。
- ・ お茶がうまく作用し、チーム員の雰囲気とも相まって参加者からは和やかで安心した心情がうかがえるとともに、相談から実際に橋渡しをした実績もあり、相談体制づくりに資する活動になっている。
- ・ 相談体制の充実のみならず、現場の現状を把握し、ニーズを探りながら適切な支援へとつながっている。
- ・ 学校との連携の活性化に資するとともに、保護者だけでなく行事を開催した学校側にも待ち時間の負担軽減等、相互に利益がある活動となっている。(見守り託児を含む)

**【子育て元気アップひろば】**

- ・ 手洗い講座と防災クッキングをセットで行うことで、簡単な感染症予防の方法と身近な物を活用した防災食の調理法を親子で学ぶことができた。コロナ期間中だからこそ注目された手洗いの仕方を講座に盛り込むことで室内での開催を可能とした。
- ・ 自然体験やトレッキングでは参加者からは「最初はおとなしかった子ども最後は全身泥だらけになり、笑顔いっぱいだった」、「子どもと一緒に寒風山の自然に触れることができ、適度な運動もできたので非常に良かった」といった声があり、親子間のコミュニケーションの活性化や同世代の子ども同士の交流へつなげている。

**【子育て元気アップ講座】**

- ・ 親子おちゃっこサロン等で話題にあがったテーマを設定した講座では、日頃の生の声を取り入れた学習内容であるため、参加者同士の積極的な話合いや講師とのやりとりがみられた。
- ・ 参加者からは、「リラックスしながら参加でき、気軽に話をしながら勉強ができて楽しかった」「なかなか他のお母さんとお話する機会がないのでよかった」との声もあり、保護者の支援の充実につなげることができている。

**【子ども×地域 元気アップひろば】**

- ・ チーム員が企画することで地域の方々からも理解や協力を得やすい(イベント周知活動にもつながっている)。種類に富んだブースを設置することで、参加者へ体験活動の充実を図るほか、地域の方々との交流により居場所づくりのきっかけになっている。



|                                    |   |
|------------------------------------|---|
|                                    | <p><b>【制服リユース】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 今まで家庭教育支援チームへ関心がなかった方へのチームの認知度の向上につながった。年間約100着の回収、約70着の譲渡を行っている。</li> <li>・ 家庭教育に関する公民館事業やアースデイ男鹿、おてら食堂といった地域イベントと積極的にかかわることで、子育てを行っていない地域の方にもチームの存在を認知してもらった。</li> </ul>  |
| <p><b>⑤活動財源</b><br/>(複数チェック可能)</p> | <p><input checked="" type="checkbox"/> 文部科学省補助事業(事業名:学校・家庭・地域連携協力推進事業)</p> <p><input type="checkbox"/> 文部科学省委託事業(事業名: )</p> <p><input type="checkbox"/> 厚生労働省事業(事業名: )</p> <p><input type="checkbox"/> 地方公共団体単独事業として実施</p> <p><input type="checkbox"/> 特段の予算措置はない(自主的に活動を実施)</p> <p><input type="checkbox"/> その他の支援により活動を実施<br/>( )</p> |